

1. 科目名 (単位数)	児童環境保健論 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3307
2. 授業担当教員	鈴木 路子		
4. 授業形態	講義と演習を併用した双方向型学習形態	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	小児保健・学校保健・保健科教育法・環境教育・幼稚園保育内容「環境」「健康」等と連携。 履修条件：生理学・解剖学・薬理学・免疫学等		
7. 講義概要	<p>少子高齢社会のなかで、児童を取り巻く自然環境、社会文化的環境を改めて見つめ、人類の生活生存を生態系としてとらえることは重要な教育的意義を有する。成長期にある児童が、それぞれの発達段階を健康に生きていくためには、自然環境からの刺激が必要である。人類の進化の過程で獲得された環境適応能力は、個体発生を繰り返していることを認識することから出発する。人が健康生活を営む能力は、児童の成長を軸とした各種環境要因との相互作用を理解することが重要である。日光、空気、気象、日内リズム、食品など、各種環境要因を自然科学的、人間生物学的に理解するとともに、人間社会の歴史的・文化的適応能力の発達について考える。この過程を通して、参加学生それぞれの専攻、学部、学科を基盤にして、ある生活環境下での児童の生命の営みについて課題を見つけ、研究を深め、意見交換を行い、他分野理解を深めたい。</p>		
8. 学習目標	人間は自然の一部であることを生態学的に捉えると共に、子育ての社会化（社会的養護含）の視点を導入し、少子高齢化社会のなかでの児童の生活生存権を護るための教師力（養護力）を理論と実践両側面から修得することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童の発育発達の法則性について、生きる力の育成の視点から論述せよ。 2 都市化・人工化が、児童の心身発達及び人格形成に及ぼす影響について論述せよ。 3 児童の人権と子育ての社会化を児童福祉の視点で考察し、行政施策について、論述せよ。 4 児童期の理解は、生涯保健の立場から、考えることの意義について論ぜよ。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】鈴木路子編著「人間環境教育学」建帛社、2017		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 人間は自然の一部であることを生態学的に捉えると共に、子育ての社会化（社会的養護含）の視点を導入し、少子高齢化社会のなかでの児童の生活生存権を護るための教師力（養護力）を理論と実践両側面から修得することができたか。</p> <p>○評定の方法 授業時間中のディスカッション 30% 期末試験 30% レポート 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	これからの人類の生活生存にとって、最も重要な課題は何であろう。人間・環境・社会を包括した「児童環境保健論」を学生の皆様と共に学びあい、討論する過程を通して、少子高齢化社会における人間の命の尊厳と環境保全に寄与する態度の育成に焦点を当てた学びを警鐘してゆきたい。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	自然の一部としての人間 その成長過程を探る －自然環境と人の適応－	事前学習	適応とは？各自今までで学んできた適応及び適応能力の発達について調べ、適応の概念形成する
		事後学習	各自の生育環境と疾病り患傾向の自分史を記述する
第2回	乳幼児期（学齢期・思春期・壮老年期を見通して）の発達と環境－五感の発達と環境刺激－	事前学習	皮膚粘膜・視覚・聴覚・平衡感覚・臭覚の発達過程を生理学的に調べる
		事後学習	皮膚粘膜から開始される人間の五感の発達を基盤にした臨床保育の実践事例を連動させる
第3回	乳幼児の発達と環境刺激 －皮膚粘膜による生体防御機能の発達－	事前学習	疾病予防のための免疫（生体防御機能）概要を予習しておく
		事後学習	環境微生物との触れ合いが少なくなった現代にあって、増加していく疾病り患傾向を理解する
第4回	乳幼児、思春期の成長過程と環境刺激 －自律神経系の発達と生体リズム－	事前学習	自律神経について調べる
		事後学習	一日の生活リズムの確立と自律神経系の発達が連動していることを改めて認識する
第5回	乳幼児・思春期及び老年期と環境刺激 －中枢神経系・内分泌系・免疫系の発達と疾病り患傾向－	事前学習	脳・内分泌・免疫の相互関連性を調べる
		事後学習	生涯保健・生涯発達の立場を理解し、生活環境との関わりから、疾病や障害を位置づけ、対策を考える
第6回	乳幼児・思春期及び老年期と環境刺激 －内分泌系・免疫系の発達と疾病り患傾向	事前学習	脳・内分泌・免疫の相互関連性を各種文献から、再評価する
		事後学習	引き続き、生涯保健・生涯発達の立場を理解し、生活環境との関わりから、疾病や障害を位置づけ、対策を考える

第7回	環境と乳幼児の疾病－感染症とアレルギー	事前学習	感染とアレルギーの起こり方の基本を復習する
		事後学習	乳幼児期の疾病を、学齢期、思春期以降へつないで学ぶ。生涯保健の意義を考える
第8回	環境と乳幼児、学齢期、思春期、青壮年・老年期の疾病－生体リズムの脱同調と生活習慣病－	事前学習	生体リズムの同調・脱同調について復習する
		事後学習	生活習慣病について、その連続性について、充分理解し、保健指導案を作成し、実践してみる
第9回	大気汚染と児童の健康被害－特に呼吸器系疾患	事前学習	各自空気を介しての感染症を調べ学習しておく
		事後学習	Pm2.5等、浮遊粒子状物質の影響
第10回	水質汚染と児童の健康被害（胎内環境・催奇形因子）－有機水銀による先天性水俣病の事例から－	事前学習	社会科教科書・学習指導要領を調べておく
		事後学習	なぜ次世代に影響を及ぼすかについて理解し、環境行政施策に必要な性を認識する
第11回	都市化・人工化による児童の健康－自律神経系・免疫系への影響（体温調節能力の発達を教科書から学ぶ	事前学習	自然環境因子の欠如が、成長過程の児童の健康影響を整理する。教科書から学ぶ
		事後学習	教科書の第1章・II章を整理する
第12回	中国の大気汚染と環境教育：過去・現在・未来－北京・瀋陽等の児童の健康状態に注目して－	事前学習	留学生の出身地中国他の大気汚染の現状を把握
		事後学習	留学生大学院修士学位論文から、考える
第13回	日本の大気汚染・水質汚濁と児童の健康影響－時代変遷から考える－	事前学習	過去の事例を収集する
		事後学習	現在に至ったその経過をまとめ、海外協力体制を
第14回	モンゴルほか、アジアの環境問題と児童の健康	事前学習	モンゴルからの留学生からの情報から学ぶ
		事後学習	気象条件による黄砂、浮遊粒子状物質等情報収集、モンゴル砂漠の緑化対策・運動
第15回	環境教育への展開：教科書第5章を総合して学ぶ 学生とのディスカッション	事前学習	教科書第5章環境教育への展開から、ESD, SDGsへ
		事後学習	これからの課題を教育学として導入展開を図る（環境保健指導案の作成と実施
期末試験			